

発行日：2021年6月13日

2020年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス競技、リレー競技(団体戦)部門
報告書



- 期日① 2021年(令和3年)3月13日(土)
- ・ 3月6日(土) 開会式(WEB)
 - ・ 3月13日(土) ミドル・ディスタンス競技部門、団体戦競技部門
閉会式
- 期日② 2021年(令和3年)3月12日(金)～14(日)
- ・ 3月6日(土) 開会式(WEB)
 - ・ 3月12日(金) モデルイベント
 - ・ 3月13日(土) ミドル・ディスタンス競技部門
 - ・ 3月14日(日) リレー競技部門、閉会式
- 開催地 三重県伊賀市 青山高原一帯
- 主催 日本学生オリエンテーリング連盟
- 主管 2020年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門実行委員会
- 後援 (公社)日本オリエンテーリング協会
三重県オリエンテーリング協会
伊賀市
伊賀市教育委員会
- 協賛 株式会社フォルテ
有限会社ヤマカワオーエンタープライズ
一般社団法人奥三河アウトドア協会

目次

ご挨拶

Page. 1~2

1

大会中止までの経緯

Page. 3~5

実行委員長 糸賀翔大

- 1.1 はじめに
- 1.2 大会開催基準の設定まで
- 1.3 緊急事態宣言を受けて

4

2021 年度大会へ向けて

Page. 13

- 4.1 テレインについて
- 4.2 実行委員会について

2

大会運営報告

Page. 6~9

運営責任者 実藤俊太

- 2.1 テレインの確定と実行委員会の発足
- 2.2 活動報告（運営）
- 2.3 会計報告

5

将来への提言

Page. 14~16

実行委員長 糸賀翔大

- 5.1 大会開催基準について
- 5.2 プロジェクト管理および会議について
- 5.3 学連と実行委員会のやり取りについて
- 5.4 団体戦の設定について
- 5.5 代替大会について
- 5.6 終わりに

3

イベント・アドバイザー報告

Page. 10~12

イベント・アドバイザー 木俣順

- 3.1 就任経緯
- 3.2 イベント・アドバイザー確認報告
- 3.3 イベント・アドバイザーを務めての所感等

選手権エントリーリスト

Page. 17~18

大会役員一覧

Page. 19

寄付一覧

Page. 20

協賛広告

Page. 21~29

ご挨拶

日本学生オリエンテーリング連盟会長
河合 利幸



2019年度インカレミドル・リレーに続き、2020年度の大会も中止になってしまいました。感染が広がって2回目の緊急事態宣言下、クラブ活動に制限がある大学が少なくないとなれば、やむを得ない判断だったと思います。4年生にとっては最後のインカレであり、その機会を失って悔しい思いをした人も多数いたことでしょう。もちろん4年生に限らないだろうし、準備を担当した実行委員会の皆さんも同様であったことは想像に難くありません。ここは耐えてくださいというほかありません。学連も社会の一員であり、規範に従う義務があります。でなければ、他人の土地を使用して競技することはできなくなるでしょう。

この春、3回目の緊急事態宣言が発出されたものの、変異ウィルスによる感染拡大に歯止めがかかりません。医療の現場は大変なことになっていると聞きます。頼みはワクチンですが、接種が進まないなか、出口までの見通しは暗いまです。私たちも今後しばらくは自由には活動できないでしょう。今すべきことは、歩みを止めないこと、制約のなかで何ができるのかを考え、それを粛々と実行することです。まずは新歓を成功させることでしょうか。オンラインによる勧誘でそれなりの人数を集めている大学もあると聞いています。ピンチはチャンス、創意と工夫で今までは届かなかったところに手が届く可能性もあります。

最後になりましたが、未曾有の事態の中、多忙な日々の合間を縫って準備と対処に当たっていただいた実行委員会とその関係者の皆さんに改めて感謝いたします。地元関係者の皆様には、様々な面でご支援ご協力をいただきながら、心配もおかけしてしまったのではないかと存じます。主催者の日本学連を代表して、お詫びするとともに御礼を申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長
谷野 文史



挨拶文をご依頼いただいてから、どのようにしてインカレミドルリレー2020に向き合えば良いのかわからず、なかなか筆が進まないまま時間が過ぎていってしまいました。

日本学生オリエンテーリング連盟幹事長・幹事会としては、様々な検討事項からインカレミドルリレー2020の中止を決断いたしました。広がる感染症、次々と中止になるスポーツイベント、延長を繰り返す緊急事態宣言。そして、何よりも開催されたとしても半数もの大学が参加できないという状況。開催したいという強い思いを持つ一方、こうした現実を突き付けられてしまい、最終的には中止という判断を下しました。幹事会は、オリエンテーリングへの愛が特に深い人たちの集まりです。だから、私と同様に、それ以上に開催したいという思いが強かったはず。そうした人たちの話し合いの中で、誰もが望まない中止という選択肢を選択するというのは、非常に心苦しく、辛い経験となりました。しかし、幹事会および実行委員会において数十時間という時間をかけて議論を行い、出した結果であるため、胸を張ってバストな判断であったと今でも考えています。

一方で一選手としての立場としては、正直今も踏切りが見つからないままです。大学生活の多くの時間と努力を注いだオリエンテーリングという競技に対して、最後の舞台がなくなってしまったこと、目指していた舞台がなくなってしまったこと、それは今となっても言葉にすることができない複雑な気持ちです。きっと、2017年入学の同期達は同じ気持ちの人も多いのではないかと思います。ただ、だからといってオリエンテーリングが嫌いになったわけでも、この競技から離れたわけでもありません。社会人となった今でも毎

週末オリエンテーリングをし、全国の仲間たちと顔を合わせ競い合い、競技を楽しんでいます。改めて今、自分はオリエンテーリングという競技が大好きで、この競技界にいる人たちが大好きであることを感じさせられています。学生の皆さんには厳しい時代ではありますが、厳しい時代であるからこそ、創意工夫を凝らして、全力で競技に取り組んでいただき、友人と素晴らしい思い出を、オリエンテーリングという競技を通じて、残していただきたいと強く願います。一人のOBとして、皆様の活躍を応援しています。

最後になりましたが、このような難しい状況のなか最後まで開催を模索してくださった実行委員会の皆様ありがとうございました。実行委員会の皆様とは、開催に向け3桁にもおよぶメールのやり取りいたしました。インカレや学生に対する熱い想いや取り組み、本当に嬉しかったです。学生を代表してお礼申し上げます。本当に、ありがとうございました。

2020年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ミドル・ディスタンス、リレー競技部門
実行委員長 糸賀 翔大



非常に悔しいことに2年連続でインカレミドルリレーは中止となりました。新型コロナウイルスの素性が分かってきている中で、昨年と同じ結果となってしまったことは大変残念で申し訳なく思っております。

この1年半で世の中の動きは大きく変わってしまいました。大学生は若者とひとくくりになされ、通常の大大会はもちろん新勤活動まで大きく制限され、非常に活動のやりにくい状況が続いているかと思えます。そのような状況の中で学生の皆さん、特に大学当局との窓口となった方々の本インカレへの参加に向けたご尽力、大変感謝しております。中止になったことは残念ですが、ぜひ同じ大学の方は労って頂ければと思います。

また、日本学連幹事の皆様は選手としての想いも重々分かったうえで、学生オリエンテーリング界の今後を考えて今回の判断をされていきました。難しい決断をきちんと行った幹事の皆様には頭が上がりません。学生の皆様も、OBOGの皆様もどうかその決断を尊重して頂ければと思います。

今回のインカレは中止になってしまいましたが、オリエンテーリング競技そのものは今後も続きます。学生オリエンテーリング界が盛り下がることは日本のオリエンテーリング界にとって大きな損失です。学生の皆様だけでなく、OBOGや地域クラブも一体となってオリエンテーリング界を盛り上げていくことが大事なのではないかと思えます。私自身、出来ることはほんのわずかですが、協力していくことが出来ればと思っております。

最後になりましたが、本大会の準備にあたっては、伊賀市の皆様をはじめ多くの皆様にお世話になりました。このような状況下にもかかわらず、本大会にご支援頂きましたこと、厚く御礼申し上げます。今後も何卒宜しくお願い致します。

1 大会中止までの経緯

1.1 はじめに

インカレ開催判断に関わる事項を時系列で下記に示す。

年	月	実施事項	備考
2020	11	11/12 ICMR の開催基準、判断フロー案を日本学連幹事団へ提示	
		11/20 日本学連幹事会にて開催基準、判断フローについて大枠を承認	このタイミングで単日開催の場合はミドル競技を実施すること、その場合、出走者の合計タイムで競う団体戦も設置することが決定。代替大会については明確な合意はないものの、実施することに反対する意見はなかった。
		判断フローの一部修正を日本学連幹事へ提案	幹事会ではなく、総会にて意思決定をする旨を日本学連幹事長から連絡を受けた。
	12	12/28 日本学連臨時総会にて、判断フロー、団体戦のレギュレーションについて承認（図1）	判断フローについては、この段階で最終版となった。
		12/31 エントリー開始	
2021	1	1/8 2回目の緊急事態宣言発令	緊急事態宣言は2/7までと報道。
		1/10 代替大会の実施について方針を日本学連幹事で議論することに決定	位置づけの曖昧さから実施に違和感を感じる声が学生から出ていたため。
		1/27 代替大会については実施しないことを日本学連幹事内にて決定	
		1/29 エントリー一次締め切り	
		1/31 3日間開催判断期日	
	2	2/1 インカレ開催判断の期日のさらなる後ろ倒しを日本学連へ提案	最大3/10まで延長することを提示。判断期日を延長することで開催可能性が上がるかどうかを議論してほしいことを伝えた。
		2/2 首都圏4都県、大阪京都兵庫、愛知岐阜、福岡県で3/7までの宣言延長が決定	
		2/3 判断期日延長可否に関する情報提示	3/10まで判断を先延ばしした際に追加でかかる費用について日本学連幹事長へ提示。
		2/17 エントリー最終締め切り	
		2/19 日本学連臨時幹事会にて中止が決定	

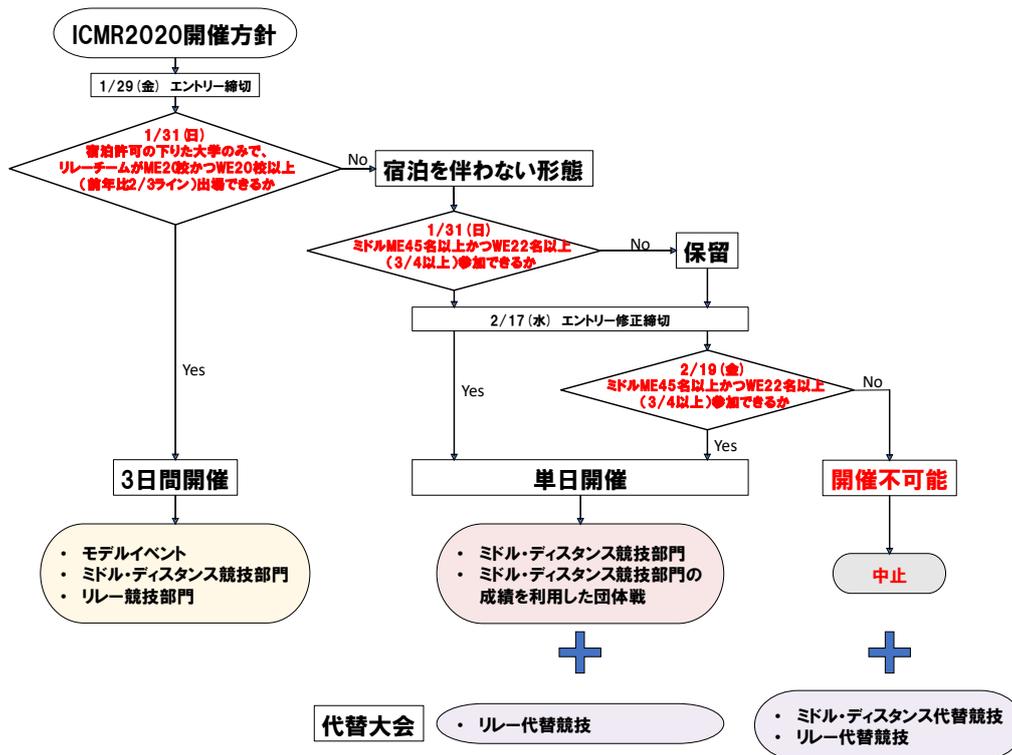


図1. 開催形態判断フロー

最終的な判断フロー。代替大会については1月に廃止が決定。

1.2 大会開催基準の設定まで

昨年のインカレミドルリレーが中止になったことをうけ、あらかじめ開催の判断基準や判断時期を明確にするべきという意見は運営者内では一致していた。特に昨年のインカレミドルリレーでは、延期をしておける開催を模索し、運営者、日本学連幹事団共に疲弊をしていたということを知っていたため、あらかじめ明確な基準を策定しておくことは有益であると思えた。日本学連幹事長も同様の意見を持っており、何度か事前に内容のすり合わせをしつつ、11月に開催判断基準を定めた。

具体的な判断基準は先のインカレロングの基準（ME45人以上かつ、WE22人以上）を参考にし設定した。また、ミドルリレーは宿泊が伴うため、全日程（モデルイベント、ミドル、リレーの3日間）の開催判断期日については、宿の確保ができかつ、キャンセル料のかからない期日から逆算して設定した。

1.3 緊急事態宣言を受けて

1.3.1 地元自治体との対応

年末からの新型コロナウイルス第2波の影響を受け1/8に2回目の緊急事態宣言が発令された。自治体へは「日本学生オリエンテーリング選手権大会開催における新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」に沿って、三重県に緊急事態宣言もしくはそれに準ずる移動宣言が発令された際は大会を中止する旨を伝えていたが、特に中止要請を受けることはなく、緊急事態宣言が解除されれば開催は可能な状態であった。

1.3.2 エントリー締め切りまで

2回目の緊急事態宣言が発令されたことで各大学の規制は厳しくなり、1/31時点で全日程での開催基準に満たなかったため、3日間開催は断念した。

この時期には運営側で対処可能な方策がないか、いくつかの大学にヒアリングをしたが、「緊急事態宣言が明けてからでないと判断ができない」といった回答の大学が多く、運営側として有効な方策を打つことが出来ずもどかしい状況であった。

その後、2/2に三重県での緊急事態宣言は解除されたが、首都圏を中心に3/7まで宣言が延長されることとなった。単日開催の判断期日である2/17までに関東圏の大学の参加可否を判断することは難しくなることが予想されたため、この段階で運営内で判断期日を延ばせないか検討を行った。検討の結果、大会開催に向けたすべての準備を行ってもよいのであれば3/10まで延長できると結論付け、日本学連幹事長に提案した。この案の場合、インカレ1回分の準備をすべて行った状態になるため、中止になった場合、赤字額が膨らむことになる。

運営側は運営収支や、地元のスタンスについて、日本学連幹事長は各大学の参加可能性の見通しについて情報を集めたうえで2/19に日本学連臨時幹事会を開催頂いた。

1.3.3 日本学連臨時幹事会以降について

日本学連臨時幹事会には実行委員長と運営責任者も出席し、幹事団との議論に参加させて頂いた。1月末の段階では参加可能であった大学も緊急事態宣言の延長を受け、一転参加が不透明な状態となっており、客観的にみると事態が好転するのは難しい状況ではあったと感じる。実行委員会としては最終的な判断は幹事団に任せるスタンスは維持しつつ、社会人や運営者としての意見も述べさせて頂いた。

日本学連臨時幹事会での議論の結果、中止が決定した。詳細な議論の内容は日本学連 HP の「2020年度インカレミドル・団体戦中止判断の経緯・根拠の掲載」を参照頂きたい。中止が決定したのは、併設大会参加者への周知、地元自治体へのお詫び等を実施した。

2

大会運営報告

2.1 テレインの確定と実行委員会の発足

2.1.1 開催地・テレインの選定

日本学連ミドル・リレー担当理事の方針で、矢板・日光地区→関西地区→矢板・日光地区→東海地区という4年サイクルで開催地選定がなされていた。本年度は東海地区の年であり、テレインの適性等の判断から青山高原での開催となった。関西地区ではインカレのセクションレースとしてクローズ前まで頻繁に使用されているテレインであったことから、実行委員会での下見を改めて行うことはせず、開催が決定した。

2.1.2 実行委員会の発足

実行委員長の糸賀は2017年頃から日本学連ミドル・リレー担当理事より内々の打診を受けていた。2020年3月頃に正式に実行委員長を拝命し、順次主要役職の勧誘を開始した。

2020年5月頃にかけて運営責任者の実藤（京都13）、渉外責任者の遠藤（大阪15）、競技責任者の森河（京都16）、ミドルプランナーの築地（神戸13）などが主要役職として内定した。実行委員長の所属している朱雀OKの若手OBや、彼らのつてをたどり、役職を固めていった。

関西では、オフィシャルとなるOBOG1,2年目を除くと、競技から離れている人や、卒業から一定年数経っている人も運営に協力してもらう必要があり、人脈のある関西の大学出身者が中心となって人を集める必要があることを改めて感じた。結果として、私に関東出身で関西に知り合いが多くはなかったことや、卒業して一定年数経過していたことも相まって、09～16入学まで満遍なく運営に参加してもらうこととなった。運営者同士で面識がない者も多かったため、互いを知り合う機会を作りたかったが、コロナ禍で大会が少なく、飲み会も制限されている中では厳しかった。当然、互いのパーソナリティを理解していた方が円滑に運営が進むため、今回の実行委員会では、その機会を取れなかったことは課題であった。

イベント・アドバイザーについては、上記のメンバーなどと話し合った結果、木俣順氏（名古屋91）に依頼することとした。木俣氏は今回と同じ青山高原にて行われた2003年度インカレにて副実行委員長を務めていたこと、大会運営経験が豊富なことから適任であったと考えられる。試走や要項作成時には大変多くのアドバイスを頂き、適切な大会開催に向けてご尽力頂いた。

2.2 活動報告（運営）

本項では、大会運営の概要を報告する。なお、本大会は中止となったが、テレインについては4章に記載の通りクローズ状態を維持し、2021年度に同テレインでのインカレ開催が予定されていることから、競技に関わる事項の詳細については本報告書には掲載しない。

2.2.1 活動概要

年	月	活動内容	詳細/備考
2020	3	活動開始	5月頃にかけて主要役職決定
		初期渉外開始	YMOE 山川氏によるテレイン及び地元渉外
	5	実行委員会発足 重役確定	5/25 日本学連幹事の承認を得て、正式に実行委員会発足 ・日程、テレイン仮決定
	6		6/6 朱雀OKの木俣氏がイベント・アドバイザーに就任
	7		パートチーフ、責任者の人員配置がおおよそ確定
	8	第一回試走	8/30 第一回試走を実施し、以下の内容を決定 ・テレイン使用範囲（モデイベ含） ・会場
	9	要項1発行	9/2 要項1発行
	10	参加可否アンケート	10/18 インカレロング後、学生に現状アンケート実施 演出において YouTube 配信について坂野氏からの提案を受け検討開始
		日本学連に 開催基準の決定依頼	10/31 開催判断基準および単日開催での競技形態について学連総会で議論を依頼
	11	要項2発行	11/13 要項2発行 ・3日間開催の場合のみ記載
			11/21 谷野氏から学連の議論結果受領 ・開催判断フローについて概ね決定 ・単日の際はミドルを行い、そのタイムを基に団体戦競技にて選手権校を決定する
	12	第二回試走	12/12 試走実施 ・コース、地図について確認
		ガイドライン発行	12/20 コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを発行
		要項2.1発行	12/28 開催基準および団体戦競技について記載した要項2.1発行
2021	1	エントリー開始	1/1 申込開始（～1/29） ・例年に比べ1か月遅く申し込み開始
		代替大会の開催中止	1/27 大会中止あるいは単日開催時に予定していた代替大会の中止を公表
	2	単日開催決定 要項2.2発行	2/1 1/31時点での開催判断を踏まえ、本大会を単日開催する旨を記載し要項発行 ・エントリー修正開始（～2/17）
		第三回試走	2/11 コースについて最終確認 ・GPS動作テスト
		中止判断	2/19 2/17時点でのアンケート結果を踏まえ、学連幹事会にて中止判断。以降の大会準備を全てキャンセル
	6	報告書公開	

2.2.2 業務委託契約

本大会では、本大会では、地図作成・マネジメント業者の YMOE 社と業務委託契約を締結した。これは書面にて「業務委託の基本的なルール」「運営の根幹に関わる業務の納期」「自責による業務遅延に対する罰則」「委託代金や YMOE 社所有物品の賃料」等を明記することが目的である。本大会では初期渉外費が半額、地図作成業務については実働部分を請求することになったが中止となる可能性も踏まえ事前に書類で取り決めを交わしておく方が望ましい。

2.2.3 渉外報告

本大会の初期渉外は、YMOE 山川氏主導で実施した。山川氏の業務内容としては基本的には、自治体・テレインの山林を管理する団体等への渉外を行い、本大会を開催できる見込みまで準備を行った。その後は山川氏と渉外担当で協力しながら会場、選手権待機所等の利用申請、地元住民へのビラでの告知を行った。例年渉外活動の初動対応については山川氏に同席をお願いしていることが多い。山川氏の多忙さや体調面も考慮すると、今後は矢板地区など山川氏が常時渉外活動をされている地域以外では、実行委員会のみでの渉外活動に取り組むことも議論してほしい。

2.2.4 演出・開会式について

演出については、選手の勇姿を会場に見に来ることが出来ない人が一定数いると考えられたので、過去インカレでも導入されている GPS トラッキングおよび YouTube を用いたライブ配信を行う予定であった。

GPS 端末、トラッキングシステムについては現在管理している奥三河アウトドア協会の戸上氏からレンタルし利用した。一方、会場にいる感染者が密集することおよび会計の圧迫を防ぐため、大型ディスプレイは使用しない方針であった。

YouTube 配信については、2020 年度インカレロング、2020 年度インカレスプリントで実績があった坂野山遊地図企画の坂野氏（東京理科 14）および小柴氏（筑波 12）から実行委員会側に使用の打診を受けた。その後、12 月に坂野氏からオンラインミーティングにて説明があり、上記二名を実行委員会に加え、彼らをメインとする配信チームを演出パートに組み込むことで配信を行うこととした。配信を行うメリットとして、会場に来られない人もインカレの熱気を感じることが出来ることや、アーカイブを新歓等でオリエンテーリングの魅力を伝える際に活用できると考えた。また、今回配信についてはオリエンテーリングに関係ない一般業者に外注することも検討したが、今後配信を行っていく上での知見を広げるための試行展開の域を出ない現在、一般業者に外注することはその役割を果たせず今後のオリエンテーリング界にとってメリットとならないことから今回は見送り、坂野氏に委託することとしていた。

一方、費用として 30～40 万円かかること、10 人程度配信に人数を割かないといけないことや競技面との調整から、運営の負荷はかなり大きくなることは事実である。昨今、インカレの参加費の値上がりや運営者不足も問題となりつつある中で配信を行うかは検討が必要となるだろう。

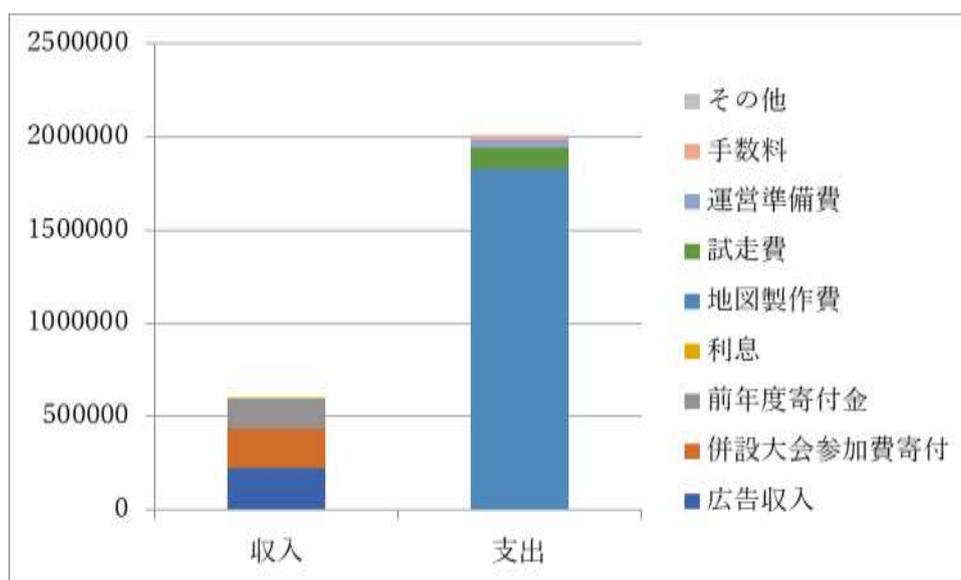
開会式については、コロナ禍の中全員で屋内一か所に集まるのはほぼ不可能と考えられたので大会 1 週間前に YouTube 配信にて開催することとした。なお、上記の演出における YouTube 配信とは全くの別物であり、今回は 2 週間前準備で会長挨拶や選手のインタビュー動画を事前録画しそれを流す予定であった。また、ICMR2018 では「式典の簡略化」の観点から選手権ミドルスタート抽選は 1 週間前に YouTube 配信を行っている。今後はコロナによる影響および式典簡略化の観点からも、例えば首長を呼ぶ意義等含めた開会式の在り方についての議論も望まれる。また、2 年連続でインカレミドル・リレーが中止になったことから学生側のノウハウ継承が課題となっている。よってロングでもミドル・リレーのようにオンライン開会式や演出内容を企画するなど

技術継承のための施策を検討するべきであると思われる。

2.3 会計報告

2.3.1 簡易会計報告

まず初めに本大会において、決算の結果概略を以下に報告する。なお、本大会は中止になっていることから予算については報告しないものとする。以下の項目ではこの結果を中心に簡単な解説を行う。



2.3.2 決算結果について

大会が中止になり、収入が少なかったことから約150万円の赤字となった。当初想定よりも赤字額を抑えることが出来たのは、想定していたよりも地図調査費を抑えることができたことや運営者への役員手当をカットすること等により支出が抑えられたこと、また、本報告書に掲載する広告収入や併設大会参加者のご厚意による寄付により、収入が増えたことによるものである。この場を借りてオリエンテーリング愛好家の皆様に御礼申し上げます。また、本大会の準備ですでに地図調査に着手していることから、次回、青山高原でのインカレでは地図調査費用がほとんどかからないことが見込まれ、今年度の赤字分の費用回収することは十分可能と考えている。

3 イベント・アドバイザー報告

3.1 就任経緯

実行委員長の糸賀氏からイベント・アドバイザー就任打診を受けたのが2020年6月6日21:55。承諾メールを返信したのが22:02。7分間熟考の上、応諾した。応諾理由は糸賀氏と競技責任者の森河氏はともに朱雀OKで汗を流す仲間、運営責任者の実藤氏は関西でも名だたる有能運営者とともに運営してみたいと思ったことや母校の可愛い後輩が表彰台上るのを間近で見たいということもあったが、何よりインカレ担当理事と糸賀氏を京都駅前「すいしん」で握手させたのは私自身であり、これを断るのは信義に反すると考えたからである。

3.2 イベント・アドバイザー確認報告

以下、日本学生オリエンテーリング選手権実施規則(以下「実施規則」)34.4 にイベント・アドバイザーの任務として定められている確認事項について報告する。

<要項の内容>

要項1(9/2発行)、要項2(11/13発行)、要項2.1(12/28発行)、要項2.2(2/1発行)について、実施規則5.2に定める必要記載内容を満たしていること、要項・項目間の相互矛盾、文章・表現上の問題、誤字脱字等についてチェックした。

今回はコロナの状況に合わせて大会開催形式が変わるという開催計画であったため、場合分けが多い要項となっており、入念なチェックを行い、運営企画の意図が正しく伝わるよう運営責任者・広報責任者に修正を求めた。

<会場・テレインの適格性>

本大会は中止となり、要項3(プログラム)は発行されず、会場は公表されていないため、ここではチェック内容については言及しない。

テレインについても具体的なチェック内容については言及を避けるが、選手権テレインとして十分な適格性を有することは確認した。

<スケジュール全体(宿泊・食事・輸送・日程・費用・トレーニングの機会)>

感染拡大対策上、運営陣が大変苦心した項目の1つが本項である。

宿泊・食事・輸送いずれも感染リスクへの対応が不可欠と認識し、運営責任者には感染対策も含めた計画立案を求めた。また、宿泊施設等のキャンセル期限との対応も重要であり、宿泊輸送責任者には業者との密な連携を求めた。

日程については、3日間開催とするか、単日開催とするか、中止とするかの決定というこれまで全く考えたことがないステップが入ることとなった。これについては、実行委員長・運営責任者に対し、運営上のクリティカルパスから遡って考えて判断のデッドラインを設け学生サイドにあらかじめ提示するようアドバイスした。その結果が本稿1.1に記載の開催形態判断フローであり、有効に機能したと考えている。残念な方向ではあったが。

費用については妥当な金額と判断したが、コロナ禍におけるキャンセルと費用の関係についてはよく考えた方がよいとアドバイスした。

トレーニングの機会については感染リスクを踏まえ機会を設けないという実行委員会の方針について同意した。

<スタート・フィニッシュ・チェンジオーバーエリアのシステムとレイアウト>

<計時システムの信頼性と正確性>

<地図規定との合致>

<地図の正確さ・作図・印刷の妥当性>

<コースの適格性>

<リレーのコースの分割方法と組み合わせ>

<コントロール位置説明>

<式典>

<競技への影響の可能性の観点からの報道関係者・観客等に対する処遇>

上記9項目は、大会中止のため、最終的なチェックは実施していない。

<運営組織・人事・会計及び競技運営全般>

運営組織は関西伝統の運営責任者が全体を統括するスタイルで実行委員長のリーダーシップを良くサポートしていた。一部責任者の業務に停滞がみられることもあったが、実行委員長他のフォローで問題なく運営されていた。本稿 5.2 で言及されている slack、オデッセイ、Trello、zoom の活用も対面が厳しいコロナ禍での運営のキーポイントであった。

人事については、責任者が就任して以降、人材確保がスムーズに進むようになったと感じた。関東に比べて圧倒的に学生 OBOG の母数が少ない中、責任者級、チーフ級、パート員級ともに十分な資質を有する運営者を集めることができていたと評価している。

会計については、コロナ禍により併設大会も含め例年通りの参加者数に達しない可能性が高く収益的に厳しくなることが想定されるため、早めに概算の収支想定をしておくようにアドバイスした。3日間開催の可能性が低くなって以降は、単日開催や中止の場合の費用について整理するようにアドバイスした。また準備終盤、YouTube 等を用いた演出実施の提案があり、収支が厳しい中での実施の位置づけについて整理するようにアドバイスした。

結局大会は実施されなかったため、当日運営の課題等については言及することはできないが、準備段階における競技運営全般について大きな問題はなかったと認識している。

3.3 イベント・アドバイザーを務めての所感等

実施規則上、イベント・アドバイザーは日本学連を代表して日本学連から派遣され、必要事項については技術委員会との協議を行うことになっています。しかし日本学連の意向は幹事長から実行委員長に伝えられ、技術委員会とイベント・アドバイザー間の協議・連絡も皆無でした。実質としてイベント・アドバイザーは単なる規則チェック担当なのだと思いますが、もう少し日本学連サイドとのコミュニケーションを取る必要があったと反省しています。

一方、一番若い運営者とは 25 歳差、一番年上の運営者でも 18 歳差とかなり年の差があったにも関わらず、密に連絡し合い、親しく接してくれた運営者の皆さんには大変感謝しています。基本的には諮問されたことに答えるスタンスでイベント・アドバイザーの任務を務めました。平時ではないシチュエーションであったこともあり、必要時には年の功から少しだけ大人な視座でアドバイスもできたのではと思っています。残念ながらインカレ開催には至りませんでした。皆さんとインカレ準備をできたことは自分の中で大切なものとなっています。

本報告を締めるに当たり、懸念事項について 1 点書き記しておきたいと思います。私がかくまでもなく多くの方が認識されているとは思いますが、今後のインカレ運営者の確保です。この 2 年、コロナ禍により思うように大学サークルへの新歓活動が難しかったと聞いています。結果として加盟員の減少が懸念されていますが、これは数年後にインカレ運営者の不足として顕在化す

る可能性があります。また、春インカレの連続中止は大学対抗であるリレーのあの盛り上がり
現在の4年生はまだ1回しか経験していないということを意味します。今回の運営で再確認した
のはインカレ運営者の多くはインカレへの恩返しをモチベーションに「あのインカレの盛り上が
りを後輩に伝えたい」という思いで運営しているということでした。万が一、2021年度も中止
となった場合、今の4年生ははたして1年生の時の想いだけで今後のインカレ運営に参画してく
れるのか、という危惧があります。学生OB・OGの母数自体の減少とモチベーションの両方の問
題が今後の運営者確保のネックとなる可能性があります。もちろんワクチン接種が進んでおり状
況は改善する方向ですが、インカレ中止の要因はコロナ禍だけではないため(例えば悪天候)、イ
ンカレの永続性のためにはこのようなことも頭の中には入れておくべきかなと思ったりします。
ひょっとしたら困難な状況に陥る可能性のある後輩達への支援の方法の1つはありきたりです
が上の世代の協力だと思います。私自身の運営参加のモチベーションは冒頭に書いた母校の可愛
い後輩の表彰台です。是非これを読まれているOB・OG諸氏も機会があれば母校や後輩達のため
に様々な形で今後のインカレ運営にご協力頂ければと思います。

4 2021 年度大会へ向けて

4.1 テレインについて

2020 年度インカレミドル・リレーは中止となったが、日本学連総会での報告のとおり 2021 年度インカレミドル・リレーを青山高原で開催する予定である。そのため、2020 年度大会に伴うテレインクローズは 2021 年度大会の開催日まで継続となる。

4.2 実行委員会について

本報告書の作成をもって 2020 年度大会の実行委員会は解散となる。2021 年度大会に向けて新たに実行委員会を立ち上げ、初期渉外が完了した後に要項 1 を公開する。

なお、2020 年度大会の運営者は 2020 年度大会で予定されていた競技に関する内容を一切口外してはならない、としている。競技情報の流出がないように注意されたい。

5 将来への提言

5.1 大会開催基準について

昨年のインカレミドル・リレーの反省を踏まえ、今回のインカレは延期はせず、開催、中止の二択とすることとしていた。単日開催の場合の種目については、日本学連幹事会にて話し合って頂きミドル・ディスタンス部門を開催することに決定した。

全日程での開催の場合、ミドル・リレーの複数日大会になるため、

- ①リレー参加校が宿泊可能か
- ②ミドル選手権出場者が出場可能か

上記2段階の開催基準を設定し、全日程での開催、単日開催、開催中止について判断を行った(「図1. 開催形態判断フロー」参照)。開催基準の具体的な数値についてはインカレロングを参考にし、設定した。判断期日についても一度改訂は行ったものの、基本的には最初に設定した期日を後ろ倒しにすることなく、判断を行っていった。あらかじめ判断基準を明確に設定できたことは運営や、日本学連幹事団の負担の観点から適切であったと考える。

今回の開催判断では、判断期日時点で出場が確定しているリレー参加校数、ミドル選手権出場者の人数を指標にしていた。そのため判断後からインカレ当日までに、参加不透明であった大学が参加可能となり、結果として大多数の学生が参加可能となる可能性もあり得る状態ではあった。しかし、実際には関東では緊急事態宣言が延長され、インカレの日程にも重なっていたことから、大会当日までにミドル選手権参加者数が開催判断基準に到達することは難しかったのではないかと思われる。

来年以降もコロナの情勢、大学当局の方針次第では宿泊を禁止される大学が一定数出ることが予想される。2年連続でインカレミドルリレーが中止になっていることや、団体戦は春インカレでしか開催されないことを考えると、今年の判断基準を単に踏襲するだけでなく、より基準を緩和することや、単日開催の際はリレーを実施することも視野に入れて話し合いを行ってほしいと考える。

5.2 プロジェクト管理および会議について

今回インカレでは管理および各種連絡のため slack、メール、オデッセイ、Trello を主に使用した。今回新たに Trello を用いてタスク管理を試みたが、使用したことのある人が少なく、使用頻度が少なかったと感じる。新アプリは便利な一方で、慣れていない人が多いと十分にその機能を発揮できず、情報が様々なアプリケーションでバラバラに管理されることが危惧される。

また、会議にはここ1年で急激に知名度を上げた Zoom を主に用いて適宜オンラインミーティングを実施した。オンラインミーティングでは対面で話すことが出来るので、議論が文字で進む slack に比べ早く進むことも多い。また簡単に会議が開け、資料の共有も簡単とメリットも多い。しかし、その簡単さ故にミーティングが多数回開催された。今回は重役がほとんど社会人であったためミーティングも平日 20 時や 21 時からの開催が多かった。そのため夜遅くまで会議が行われることも珍しくなかった。本大会は、運営初期から新型コロナウイルス対策や演出について等例年のインカレに比べ議論すべき点が多かったは事実だが、運営者の負担が例年のインカレに増して多かったと感じる。また、そのミーティングに参加できなかった運営者からすると、ミーティングで自分の意見を言う前に結論が決まってしまうことがあり、不満に感じることもあったように見受けられた。開催前にアジェンダを共有しておくことで、時間短縮や事前意見の徴収を行うことが重要と感じた。

今後、オンラインミーティングと slack 等の情報伝達ツールを上手く組み合わせた運営の進め方が構築されていくことを期待する。

5.3 学連と実行委員会のやり取りについて

今回は、判断基準案個人タイムの合計で競う団体戦の設置など、選手権にかかわる事項については、実行委員会から日本学連幹事長（以下、日本学連幹事長）に提案、相談をしながら決定していった。一方で、インカレロングの開催可否や、インカレスプリントの実行委員長業務など、日本学連幹事長の業務が（傍から見て）膨大になっていたこともあり、連携が滞ってしまうことがあったように思われた。日本学連幹事長は全体俯瞰を役割とし、日本学連幹事の中から各インカレごとに担当者をつけ、実行委員会と主なやり取りをする形にするなど、スムーズな情報交換が出来る仕組みを作ることも大切だと感じた。

5.4 団体戦の設定について

今回のインカレでは、単日開催の場合、各大学 3 人ずつの個人戦合計タイムで大学としての順位を決定する団体戦の設置を行った。現在のインカレ実施規則にはない部門であることもあり、実行委員会側から日本学連側に案を提示し、承認を頂き、実施する方向で動いていた。一部からは反対の声も上がっていたが、通常開催が難しい以上、少しでも大学単位での盛り上げの一助になればと思い、準備を進めていた。実際の盛り上げりがどのようになるかはやってみないと分からないところではあったが、実況や中継で盛り上げられればと考えていた。来年以降、実施するかどうかはその時の実行委員会、学連の意思で決めて頂ければと思う。

5.5 代替大会について

今回は当初、ミドル、リレーそれぞれ開催基準を満たさなかった場合、インカレで用いるコースを使用した代替大会の開催を予定していた。意図としては大きく下記の2つであった。

- ①単年で見た際の収支改善
- ②参加できる人だけでも参加することでの一定の満足感を得てもらう

①については、インカレが単日開催となった場合、参加費収入が減るため、それを少しでも補うことが必要と判断していた。一方で、今回のように両日とも中止となり、テレインクローズの状態が保たれている場合は、来年度に開催をスライドすることで回収可能となるため、インカレが両日中止の場合は理由としてはふさわしくなくなる。

②については、参加できる人だけでも参加することでオリエンテーリングを楽しんでもらいたいという運営側の思いがあった。せっかくオリエンテーリングが出来るコースがあり、全員ではないが参加可能な人もいるのにその機会を無くしてしまうことはもったいないという考えであった。そのような考えを運営側が持っていた一方で、代替大会の位置づけを曖昧なままにしていたため、インカレと同じ日に同じテレイン、同じコースでオリエンテーリングが行われ、一定数の大学生が走る、という大会の性質に不信感を抱かせてしまうこととなった。そのような声を受け、学連幹事会にて代替大会の開催有無について決議を諮ってもらうこととなり、代替大会は実施しないこととなった(1月10日に決定)。運営者は「代替大会はインカレと独立した一般的なオリエンテーリング大会として開催する」という意図であり、その意図を当初からより明確に伝えるべきであったという点は反省点である。一方で、インカレという大会の格や重みを学生の皆さんが非常に重視していることを改めて感じた。

代替大会に関しては、申し込みを開始したあとに撤回する形となり、参加予定の皆様にご迷惑をおかけした。「5.3 学連と実行委員会のやり取りについて」の反省と通ずるが、コロナ禍では、学連側と実行委員会とで前もって綿密に話し合い大会の形態や位置づけを決めていくことが望ましいと痛感した。

5.6 終わりに

今回のインカレは昨年と異なり、新型コロナウイルスの性質が分かりつつある段階であり、地元の方からも大会開催にご理解頂いている中での中止となった。いつまで新型コロナウイルスの感染状況を気にしながらのインカレ運営が続いていくのかまだ見当がつかないところであるが、開催基準や代替大会の在り方など、来年以降も議論になった際に、本報告書が少しでも役に立てば幸いである。

選手権エントリーリスト

・★印はシード選手です。

・中九四学連は不参加確定により申込みがありませんでした。

ME (1/2) 申込数 58 人	
氏名	学校・学年
金子 哲士	東北大学 4
唐木 朋也	東北大学 4
嶋崎 涉	東北大学 4
菌部 駿太	東北大学 4
保苺 優	東北大学 4
山田 基生	東北大学 4
小林 俊介	東北大学 3
今野 陽一	東北大学 3
山田 峻大	東北大学 3
稲毛 隆太	東北大学 2
石崎 建	金沢大学 4
鈴木 皓紀	新潟大学 4
江野 弘太郎	慶應義塾大学 4
伊藤 頌太	慶應義塾大学 3
田淵 ヒカル	慶應義塾大学 3
宮嶋 哲矢	千葉大学 4
伊地知 淳	千葉大学 3
★小牧 弘季	筑波大学 4
名雪 青葉	筑波大学 3
祖父江 有祐	筑波大学 2
永山 遼真	筑波大学 2
渡邊 寛希	筑波大学大学院 4
池田 直樹	東京大学 4
★朝間 玲羽	東京大学 3
★伊藤 元春	東京大学 3
藤原 悠平	東京大学 3
本庄 祐一	東京大学 2
津田 卓磨	横浜国立大学 4
中嶋 律起	横浜国立大学 4
鈴木 琢也	横浜国立大学 3
羽田 拓真	横浜国立大学 2
★大石 洋輔	早稲田大学 4
森清星矢	早稲田大学 1
高橋 英人	一橋大学 4
根岸 健仁	一橋大学 2
小寺 義伸	東京工業大学 4
倉田 瞭一	東京工業大学 3
宮川 靖弥	東京工業大学 3
菅沼 友仁	茨城大学 4
溝井 翔太	茨城大学 3
鈴木 京佑	横浜市立大学 4
阿部 遼太郎	横浜市立大学 3
生田 峻	関東学院大学 4
石川 創也	名古屋大学 4
住吉 将英	名古屋大学 4
ME エントリーリストは右上へ続く	

ME (2/2)	
氏名	学校・学年
棚橋 一樹	名古屋大学 4
粟生 啓介	名古屋大学 3
藤井 一樹	名古屋工業大学 3
片岡 佑太	大阪大学 4
★太田 知也	京都大学 4
徳地 研人	京都大学 4
丸山 ゆう	京都大学 4
古池 将樹	京都大学 4
伊藤 良介	京都大学 3
箕浦 皓	京都大学 3
和佐田 祥太郎	京都大学 3
★平岡 丈	京都大学 2
★二俣 真	京都大学 2

WE 申込数 31 人	
氏名	学校・学年
渡邊 裕子	岩手大学 4
菊池 美結	岩手大学 3
武石瑞季	岩手大学 2
小林 祐子	東北大学 4
八木橋 まい	東北大学 4
菊地 美里	東北大学 2
水上 玲奈	東北大学 2
三浦 快嶺	福島大学 4
井村 唯	新潟大学 4
上島 じゅ菜	お茶の水女子大学 2
長瀬 麻里子	お茶の水女子大学 2
岩崎 佑美	慶應義塾大学 3
★宮本 和奏	筑波大学 4
片岡 茅悠	東京大学 4
清野 幸	横浜国立大学 4
★香取 瑞穂	立教大学 4
★世良 史佳	立教大学 4
秋山 美怜	早稲田大学 4
★阿部 悠	実践女子大学 3
池ヶ谷 みのり	一橋大学 3
松田 千果	横浜市立大学 4
栗山ももこ	横浜市立大学 2
中神 智香	静岡大学 3
★伊部 琴美	名古屋大学 4
近藤 花保	名古屋大学 2
山根 萌加	京都大学 3
重岡 慧実	京都大学 2
永山 尚佳	神戸大学 3
駒崎 成美	神戸大学 2
松本 萌恵	神戸大学 2

MET		申込数 26 校
学校コード	学校名	
101	岩手大学	
102	東北大学	
201	金沢大学	
203	新潟大学	
303	慶應義塾大学	
305	千葉大学	
306	中央大学	
307	筑波大学	
309	東京大学	
310	東京農工大学	
311	東京理科大学	
313	法政大学	
315	横浜国立大学	
317	早稲田大学	
341	一橋大学	
356	東京工業大学	
368	芝浦工業大学	
372	茨城大学	
378	横浜市立大学	
384	関東学院大学	
401	静岡大学	
402	名古屋大学	
441	名古屋工業大学	
501	大阪大学	
504	京都大学	
506	神戸大学	

WET		申込数 25 校
学校コード	学校名	
101	岩手大学	
102	東北大学	
201	金沢大学	
203	新潟大学	
301	青山学院大学	
305	千葉大学	
307	筑波大学	
310	東京農工大学	
311	東京理科大学	
315	横浜国立大学	
316	立教大学	
317	早稲田大学	
319	実践女子大学	
350	相模女子大学	
362	聖心女子大学	
364	日本女子大学	
378	横浜市立大学	
384	関東学院大学	
391	十文字女子大学	
402	名古屋大学	
444	椋山女学園大学	
501	大阪大学	
506	神戸大学	
541	京都女子大学	
545	奈良女子大学	

大会役員一覧

●責任者・チーフ

役職	名前	出身
実行委員長	糸賀 翔大	東京 11
運営責任者	実藤 俊太	京都 13
競技責任者	森河 俊成	京都 16
コースプランナー (ミドル)	築地 孝和	神戸 13
コースプランナー (リレー)	加藤 岬	東京 14
Web 責任者	芦原 和樹	大阪 14
会計責任者	蜂須賀 久晴	東京 11
人事責任者	岩城 大行	大阪 14
広報責任者	田中 創	大阪 15
資材責任者	稲岡 雄介	大阪 15
渉外責任者	遠藤 匠真	大阪 15
エントリー	藤本 拓也	京都 16
会場チーフ	松本 拓也	名古屋 13
スタートチーフ	山本 明史	京都 15
フィニッシュチーフ	牧内 佑介	京都 13
誘導チーフ	竹内 孝	京都 13
給水救護チーフ	佐野 萌子	京都女子 15
トレイルO	伴 毅	京都 08
モデルイベント	衣川 浩輔	一橋 12
演出パートチーフ	中野 喬博	東京 14
計センパートチーフ	岩田 健太郎	東京 11
受付責任者	松井 俊樹	京都 12
宿泊輸送責任者	三村 公人	神戸 14
コロナ対策担当	小泉 知貴	慶應義塾 13
備品副責任者	近藤 吉史	大阪 14
副運営責任者	稲吉 勇人	名古屋 13
併設大会実行委員長	堀 裕多	大阪 10

●その他

役職	名前
初期渉外	山川 克則
地図調査	西村 徳真
日本学連ミドル・リレー担当理事	海老 成直
イベントアドバイザー	木俣 順

●一般役員

名前	出身
戸上 麻美	茨城 13
稲田 優幸	茨城 13
寺田 啓介	京都 09
田中 宏明	京都 11
太田 裕士	京都 12
中西 裕樹	京都 14
山森 聡	京都 14
越智 純毅	京都 14
田中 陽祐	京都 15
山本 穂波	梶山 14
橋爪 佳菜子	梶山 14
帯金 未歩	大阪 13
矢野 峻平	大阪 14
緒方 空人	大阪 14
柴田 龍一	大阪 14
執行 雄樹	大阪 14
佐藤 和真	大阪 15
藤本 雄大	大阪 16
小柴 滉平	筑波 12
植田 翔大	東京 14
戸上 直哉	東京工業 12
坂野 翔哉	東京理科 14
大野 真由莉	奈良女子 14
岡本 ひなの	奈良女子 15
前田 悠作	名古屋 10
高水 陽介	名古屋 12
松岡 慧	名古屋 13
高水 友香	名古屋 13
長良 颯太	名古屋 14
是永 大地	名古屋 14
今泉 将	名古屋 14
岩瀬 史明	名古屋 14
青木 健悟	名古屋 15
出口 智士	名古屋 16

寄付一覧

本大会の趣旨に賛同いただき、下記の個人・団体の方に寄付金をいただきました。大変残念ながら大会は中止となってしまいましたが、頂いたご寄付は今後の学生オリエンテーリング界の発展のために役立てさせていただきます。深く御礼申し上げます。

氏名	所属
石野 夏幹	入間市 OLC
稲毛 日菜子	京葉 OL クラブ
稲葉 英雄	三河 OLC
猪俣 祐貴	入間市 OLC
大箱 貴志	京都 OLC
大東 祐汰	晴れの国岡山 OLC
緒方 賢史	奈良市
緒方 美智	奈良市
金谷 敏行	朱雀 OK
加納 尚子	朱雀 OK
鹿野 梨佳子	杏友会
上島 乃英	つるまい OLC
河合 利幸	OLC レオ
栗栖 怜央	緑桜会
小菅 一輝	朱雀 OK
小林 岳人	ES 関東 C
小林 正子	ES 関東 C
近藤 恭一郎	朱雀 OK
桜井 剛	ES 関東クラブ
佐藤 政明	
菅 麻里絵	朱雀 OK
瀬尾 峻汰	KOLA
田代 雅之	静岡 OLC
田邊 拓也	横浜 OL クラブ
玉木 圭介	大阪 OLC
徳増 宏基	つばめ会
飛松 淳一	OLC レオ
内藤 愉孝	浜松 OLC
中原 信一	大阪 OLC
中村 菜菜	ES 関東 C
深川 陽平	朱雀 OK
福田 雅秀	川越 OLC
前川 一彦	大阪 OLC
前田 裕太	梶山コーチ/三河 OLC
増田 七彩	GROK
松尾 怜治	GROK
松澤 俊行	茶の間
宮川 早穂	ES 関東 C
結城 克哉	トータス
渡邊 彩子	トータス

団体名
ES 関東クラブ
入間市オリエンテーリングクラブ
大阪オリエンテーリングクラブ
丘の上・方向音痴会
岸和田オリエンテーリング協会
京都オリエンテーリングクラブ
横浜市立大学 OB・OG

協賛広告

協賛広告掲載団体

報告書への広告掲載に同意を頂き、中止決定後の本大会へご協力を賜りました。深く御礼申し上げます。

団体名	広告掲載ページ
岸和田オリエンテーリング協会 横浜市立大学 OB・OG	21
長野県オリエンテーリング協会	22
京都オリエンテーリングクラブ	23
杏友会	24
桐嶺会	25
0-GPS Tracker 丘の上・方向音痴会	26

団体名	ページ
つばめ会 朱雀 OK	27
大阪オリエンテーリングクラブ ES 関東クラブ	28
入間市オリエンテーリングクラブ 練馬オリエンテーリングクラブ	29



KOLA

(岸和田オリエンテーリング協会)

～楽しいことをより楽しく～



KOLAには競技派な人はあまりいないのですが、毎年必ず3回大会を運営していたり、リレーは複数チーム出したりとゆるいながらもオリエンを参加者としても運営者としてもちゃんと楽しむ雰囲気は僕は好きです。





栗本美緒(津田塾大)



高野陽平(神戸大)



小笠原萌(奈良女子大)



坂東倫楽(京都女子大)



公式HP



Twitter



レース中に苦しいと思った時は 自分に甘えてるサイン、そこからもう一回頑張れます！ 4期田中

レースも応援も全力でやりきりましょう！
頑張れよこいち！ 5期森田

努力は絶対裏切らない！
楽しんで！8期篠崎

落ち着いて楽しんで～！
5期土田

悔いのないように楽しんで！
7期高橋

思い通りいかないこともあるけど、それもインカレ！楽しんで！！
ライブ配信で応援しています！ 7期北川

自分を、そして仲間を信じて。
よこいち強い！！ 7期平松

想いを走りに！
頑張れよこいち！！ 8期篠塚

今までの努力を思い出して、
本番は楽しんで！ 8期松嶋

悔いのないように全力でがんばって！
応援してます！！ 8期古谷



Mamaka Kuriyama



Kiyasuke Suzuki



Piika Matsuda



Ryotaro Abe

YOKOHAMA CITY UNIVERSITY

全集中

筑波大学

小牧弘季

千葉大学

宮嶋哲矢

横浜市立大学

栗山ももこ

筑波大学

森 恒大



長野県オリエンテーリング協会

巻き起こせ、京の旋風！！



山根萌加選手
(京都大学)



岩田慈樹選手
(京都大学)



和佐田祥太郎選手
(京都大学)

京都OLCってどんなクラブ??



運営したり(トレイルOも!)



BBQしたり(会員のお家で!)



リレーに強い!



お前も会員にならないか?



京都OLCに興味がある方はいますぐこちらまで!

Mail : ysjdy953@ybb.ne.jp (会長: 小野田, ★→@へ)

Twitter : https://twitter.com/kyoto_olc

Facebook : <https://www.facebook.com/kyotoOLC/>

リレー中止は残念ですが、一本のレースに集中する機会が与えられた。そう考えれば別の世界が見えてくることでしょう。健闘とそれぞれに成長の機会となることを祈念しています

2期 村越真

さあ決戦だ!コロナに負けずに積み上げてきた自分の努力と、支えてくれた人達の思いを形にするととき!

4期 大橋晴彦

厳しい環境の中ですが、練習の成果を發揮してください。

8期 新田見俊宣

この1年は特に大変だったと思います。私はオリエンテーリングが下手だったので言う資格はないかもしれませんが精一杯力を出しきってください。応援していますよ!

11期 浅田裕之

本当に特殊な1年でしたが、正月の箱根でも強い選手が実力を發揮するのを見て逆風に負けないアスリートの逞しさを感じました。皆さんもこの1年の成果を發揮して1秒を削りだすレースを期待しています。

12期 鹿島田浩二

記録にもですが記憶にも残るレースができますように...

13期 三橋ゆかり



レースは自分のために 結果は皆のために 全力で次のポストを目指せ!

27期 茂木堯彦

思いっきり走って、思いっきり応援して、これ以上ない最高の2日間を。頑張れ、OLK!頑張れ、十文字!

30期 長縄美春

これまでに経験したことのないインカレになると思います。出来なかったことを思うのではなく、やってきた事を信じて最後まで走り抜けてください。

32期 堀田達

これまで色々あったと思いますが、最後に力を出し切って一年を終えて下さい。

33期 石野夏幹

こんなご時世になってしまいましたが、それでもインカレが開催されることに感謝ですね(〜)自分の持てる力を出しきって、実りある大会になりますように。

33期 福吉桜子

全力でインカレを楽しんでください!蟲屑にならない程度に応援してます!

34期 系賀翔大

レースが終わったら、たとえどんな結果でも周りに何を言われても自分を褒めてあげてください。応援しています。

35期 伊東瑠実子

先の見えない藪の中、この舞台を目指し、進んできたこと。行き場のない苦しみを生き抜いた事実とはとても強い強さには変わるはず。オリエンテーリングを、OLKを全力で楽しんで。この1日が、輝きますように。

35期 宮川早穂

開催されることを祈ってます。それぞれにとってのベストレースができますように。4年生、ラストランがんばれ!!"

36期 系賀彩夏

最後まで戦う勇姿を見せてください。見届けさせてください。

37期 加藤岬

今、目の前にあるものに全力を尽くして下さい。自分の未来を切り拓く、ただ一つの手手段です。

37期 瀬川出

全てを全力で楽しんでください

37期 平山遼太

今までやってきたことをいつも通りに、この舞台を楽しんで、最後まで全力で!

37期 松尾怜治

1回しかないこのインカレを思いっきり楽しんで!応援しています!OLK、もんじファイト!

38期 村山友梨

できる限りのことをやってきた人は強いはずです。頑張ってきた人を心から応援しています。

38期 出原優一

1人1人が自分らしくレースに向き合い、一緒に頑張ってきた仲間と走り切れますように!応援しています!

38期 清水直

忍者の里が舞台ですね。コロナ禍の世の中を忍び、努力してきた成果を今こそ披露してください!

39期 石田晴輝

今ある機会に感謝して全力を出し尽くそう

39期 比企野純一

頑張っ!

39期 木下達仁

しっかり体を温めたら、あとは全力で走り抜けるのみ!ファイト!

39期 佐藤公洋

ケガと体調に気をつけて、それぞれの楽しみ方で楽しんでください!いってらっしゃい!

39期 鹿野梨佳子

頑張れ、 東大OLK 杏友会一同

インカレでしか味わえないものが皆さんを待っている。持てる全ての力を發揮して楽しんできてね!

39期 小林美咲

自分の道は自分で拓こう。

39期 後藤和樹

思いの分だけ思い出と記憶に残る大会になると思うので、めいっばい楽しんでください!応援しています。

39期 塚田恵理

練習機会が大きく制限された1年でしたが、その中でもいかに努力してきたかが証明される場がこのインカレになると思います。この1年間のオリエンに対する想いを存分にレースにぶつけて下さい!皆さんが笑顔で終えられるよう祈っています...

39期 後藤幸大

皆さんが実力を100%出し切れるように応援しています。インカレを精一杯楽しんでください!

39期 長江有祐

君たちがこの日まで積み重ねて来たものは目に見えないけど、渾身のレースでそれが發揮出来ることを祈っています。つらかったあの時もの日のためだったと思えるような、そんなインカレになりますように。

39期 高見澤翔一

最後まで全力で!みなさんの頑張りを楽しみにしています。

39期 大橋陽樹

用意された舞台への感謝を忘れず、最後の瞬間まで全力で走り抜けて下さい。

39期 飯田泰史



醒めて起て、筑波大学

全てを出し切り、何十年経っても「あのインカレはよかった」と心のそこから笑って話せるようなインカレを
(2013 地球 田中基成)

今年度最後のインカレ、楽しんでください！
(2016 工学システム 佐野響)

がんばってください！ (1982 農林 西松伸一郎)

出来ることを淡々と
(1994 社会工学 まつだじゅにあ)

現役生の皆さん、本当にお疲れ様です。インカレが開催されて多くの部員が満足のいく結果を出せるようにと陰ながら思っています。
(2016 社会工学 鈴木大喜)

速いやつはモテるぞ、走れ！！！！
(2015 体育専門 山岸夏希)

自分が使える技術を素早く丁寧に！
(2015 地球 楠健志)

難しい状況の中でせっかく得られたチャンスを無駄にしないように、精一杯頑張ってください！
(2014 応用理工 小森太郎)

楽しんでください！ (2015 人文 大野亘毅)

オリエンテーリングは楽しいとオリエンテーリングを選んで良かったとそんな風に思っていて欲しいです。
(2014 心理 小林)

100%完全燃焼！ (2014 地球 三橋武史)

最後までナビゲーションを切らさずに。
(2016 比較文化 増澤すず)

筑波大学のオリエンテーリング界以外からの応援も結構あると聞く。それだけ君たちの努力が評価されているということだ。長い歴史の最新ページに思いっきり自分の努力を描き込め。
(1982 生物 宮本知江子)

ベストを尽くして頑張れ！ (2014 地球 前畑健人)

コロナを吹き飛ばす走りをして！！
(2016 応用理工 高本章寛)

自粛にめげずに続けてきた努力は報われるはず。忘れられないインカレにしましょう！
(2002 チームオフィシャル 八神遥介)

最後まで全力で走り抜け！
(2015 応用理工 仁野平拓)

頑張ってください！
(2015 応用理工 橋本)

青山高原の美しい等高線に惑わされず、難易度と満足度の高いトレイルを激走して、笑顔でゴールを！応援しています！
(1984 基礎工 武藤拓王)

楽しんで～！！ (2015 地球/生物 中島颯大)

ご活躍を祈念しております (2015 地球 安達郁哉)

こんな時こそ熱く、良い意味で記憶に残るレースが出来ることを願っています。
(2016 比較文化 嶋力乃介)

森を駆けろ！ (2011 工学システム 後藤孔要)

晴れの舞台で、思う存分力を出し切れることを祈っています。
(2006 比較文化 常住紗織)

春インカレは1年間を締めくくる晴れ舞台です。緊張も高揚も焦燥も、一つ残さず存分に楽しんでください！
(2016 生物資源 小竹佳穂)

姿が見えなくてもYouTubeで応援してるぞ。
(1975 自然 保延光一)

コロナを吹き飛ばして悔いのない走りをして！
(1989 社会工学 松沢修)

筑波大学オリエンテーリング部OB・OG会 一桐嶺会 一同



O-GPS Trackerはインカレに 全力を捧げる学生の皆様を応援しています



O-GPS
tracker

ナビゲーションスポーツを観る、魅せる



Twitter @O_GPS_Tracker

大変な1年だったと思います。その中で色々考えながらトレーニングをしたことは今後の財産になります。陰ながらインカレ応援しています。悔いの残らないよう、頑張ってください

47期 小室

最高の舞台が用意されました。最高の走りをしてください。丘の上15期 小泉

全力で走り、全力で声出し、全力で楽しみ！ 46期 田中

4年生は最後のインカレ、悔いのないよう、1秒1歩を大切に丘の上17期 清水

君たちは、強い。

結果が何であれ懸念に向き合うことが次に繋がるということが最近気づきました。頑張ってください

47期 上島

楽しみむことを第一に、そうすれば結果は後からついてくる！ 48期 西下

目の前のレッグを「楽しみむ」気持ちで忘れずに！応援します！ 48期 桃井

あなたたちなら大丈夫 47期 村田

最後まで悔いの無いよう戦ってきて下さい 48期 清水

自分にできることを全力で 47期 平松

楽しみむことを忘れず最高の思い出を!! 47期 石井

艱難汝を玉にす 47期 濱野

目の前のレッグ・次のマップコンタクト・仲間やライバルの走り。インカレでしか見られないものに没頭！

47期 稲森

1年の集大成！最後まで諦めず走れ！ 46期 吉澤

頑張れ!東工大OLT!

どんな時も元気に楽しく!
戸上

過去に類を見ない大変な1年になりましたが、
インカレではこの1年の集大成が見られることを期待しています。
徳増

このご時世「飲む」「打つ」「走る」は難しくても「走る」はできるはず。
インカレが無事に開催され、OLTの皆さんが活躍することを祈っています。
奥田



競技終了までコンパスはいつも肌身離さず持ち歩こう!
インカレを楽しんで!最後まで全力で! 藤本

困難の多い1年を歩んできたからこそ、發揮される底力があると思います。
それをインカレにぶつけてください!
ん?これを見たらインカレ頑張るって言ったよね? 坪居

桑原

村上



レジャセンは6000万円、でも思い出は億千万。OLT部員よ!
万感の思いを込めてテレインを駆ける!
吉川

バーチャルの世界から応援しています。OLTしか勝たん!!!
武田

上級生は去年の思いもぶつけてください!
新入生は初めてのインカレミドルを楽しんでください!
岡田



これから就職活動を始める君へ
やりたいことができる会社を見つけることが一番。
でも、会社はサークルとは違う。利益を上げて社会に貢献するところ。仕事とはとてもやりがいがあることなんだ。社会・会社についてもっと知るべき。知るためには社会人ともっと話そう。話したいときはいつでも呼んでください。
みんなで"オンライン"で飲みましょう。

この春の就職が決まっている君へ
内定おめでとう。最初はプライベートと会社のバランスに悩むと思う。入ったからにはまずは会社に全力投球すべきと思うよ。でも学生時代から生活が一変するって不安だね。そんなとき、学生っぽい飲みがしたいけどお金が足りないとき呼んでください。

日々会社の仕事でしんどい君へ
お疲れ様。まずは心身が大事。休めるときにしっかり休んでください。理不尽なことや無意味に思う苦労も後々重要な経験であったと気づくことがあります。どうかしんどさとうまくつきあいながらここを乗り切ってください。うまくやっていくためにアルコールが飲みたいときは呼んでください。
みんなで"オンライン"で飲みましょう。

新たな門出に立つ君へ
新たな門出、心から祝福します。これからの新しい生活、楽しみですね。でも、時には調子の悪い時もあります。長い人生、うまく続けるコツは適度の気分転換。君にはいつでも来れる場所があるよ。気心の知れた仲間と飲みたいときがあれば呼んでください。
みんなで"オンライン"で飲みましょう。

~離れていてもみんなで一緒に飲みましょう・朱雀OK~



大阪OLCは学生の皆さんを応援します

伊賀インカシを全力で楽しもう！

片岡佑太（大阪大学）吉田薪史（大阪大学）

桃本一輝（大阪大学）丸山ゆう（京都大学）

高橋 茉利奈（大阪大学）



大阪OLCと一緒にOLを楽しみませんか？

新入会員随時募集中！気軽にお声がけ下さい！

URL: <http://www.orienteering.com/~osakaolc/>

Mail: osakaolc@gmail.com

2020年度インカレミドル

がんばれ！ES関東クラブ

生田峻・田中瑠偉・小林璃衣紗・金子詩乃

富山詩央里・高橋英人

伊地知淳・坂根歩実・長瀬麻里子

ENJOY!!

頑張れ！入間市OLC！

入間市OLCは全日本リレー埼玉県チームも応援しております！

世良 史佳
藤平 歩

立教大学
実践女子大学

片岡 芽悠
立松 空

東京大学
早稲田大学



小川一真



野中麻佑子



明神紀子



澤田直志

集大成の時

まだまだやれることはある。
最後の1レグまで全力を尽くせ！



練馬OLC 新入クラブ員募集中

- ・ユニフォーム無料で差し上げます。
- ・CC7と一緒に出場しましょう。



一緒に楽しくやりましょう！詳しくは→



池田匠

Thanks to Oripfoto